2016.12.3～4　日本野球科学研究会第 4 回大会@東京大学駒場キャンパス

競技人口が激減する
学童野球の課題と対策
～鳥取県西部地区における
部員保護者対象の実態調査から～

○古曳　正太，　平野　勝久

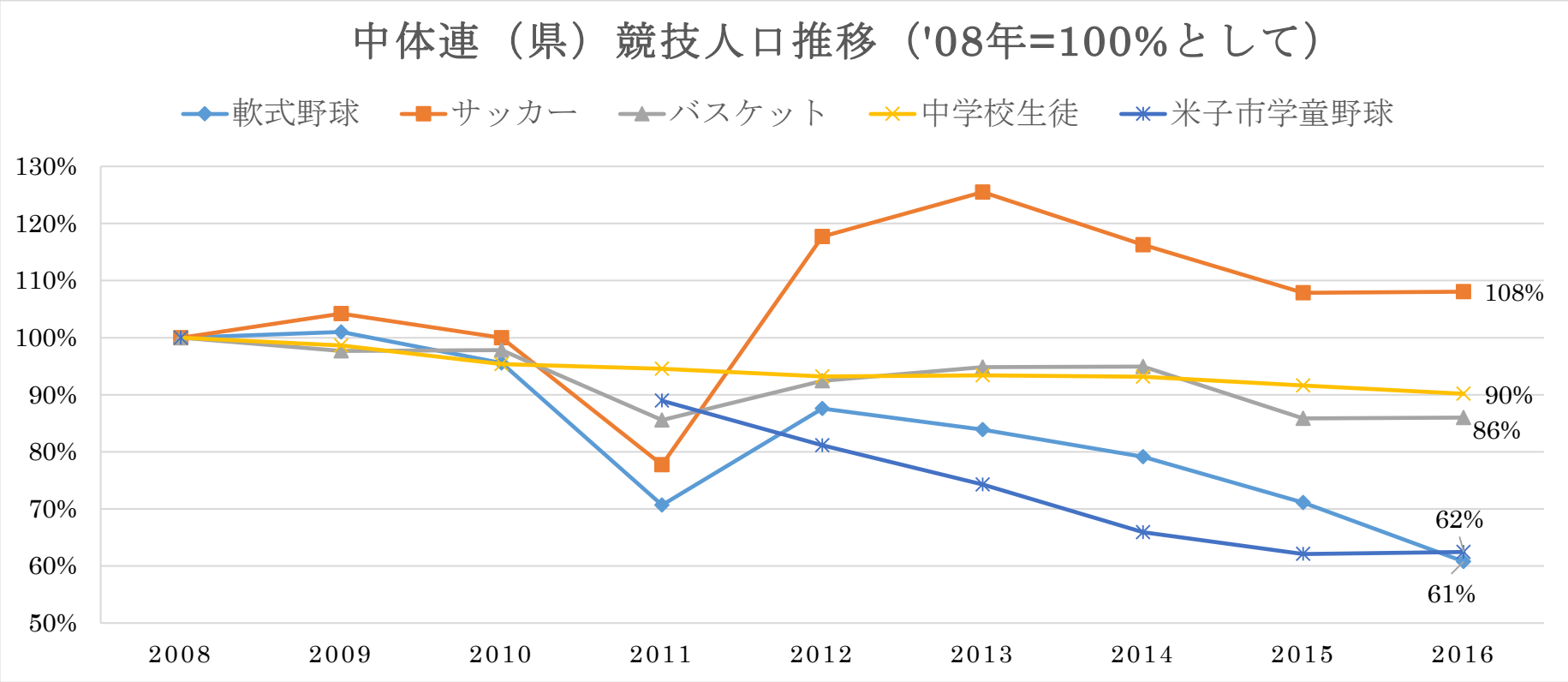
（鳥取県西部地区高校野球 OB 連盟／

米子東高校野球部 OB 会）

【１】　はじめに（目的）

全国的に，小，中学生の野球の競技人口減少が進行している．鳥取県内における競技人口の推移は，以下に示す通りである．

（鳥取県統計課学校基本調査，日本中体連加盟校調査集計等により作成）



学童野球については過去の正確な数値の管理がされておらず，空白の年度（'09～'10 年度）がある．また，中学生年代では硬式クラブチームが 2 チーム存在し，掛け持ちの生徒等もいるため，正確な競技人口は把握できないが，双方とも多くの部員がいるというわけではなく，むしろ近年は部員不足に悩まされていることから，本集計に大きな影響を与えるものではないと考える．

直近 8 年間で，児童，生徒数減少の 4 倍程度のペースで競技人口が減少している．47 都道府県中，最も人口が少ない 573，441 人（国勢調査，2015）である我が県においては，競技人口の急速な減少は，県内の競技レベル維持は勿論のこと，競技存続にも大きな影響を及ぼしかねない．

そこで，野球少年・少女のいわば入口である学童野球（小学校軟式）に着目して，競技人口減少の要因となる課題と，その対策を検討するため，部員保護者を対象とした実態調査を実施した．

【2】　アンケート調査（方法）

配付時期：2016 年 2 月

対象チーム：県西部地区学童野球チーム（県軟式野球連盟傘下）

2 市 2 郡（米子市，境港市，西伯郡，日野郡）　37 チーム

対象者：2015 年度部員保護者（1 家庭 1 部）

※6 年生は引退していると考えられることから 5 年生以下を原則とするが，
6 年生も協力頂ける範囲で回答頂いた．

最終回答者：29 チーム，家庭数 274（部員数 289）

回答終了：2016 年 5 月

県西部地区は，米子市，境港市，西伯郡，日野郡の 2 市 2 郡から成り，その人口

は県全体の 40%程度を占める．調査は，2016 年 2 月，市郡連盟から各チームを通じ配付した．計 274 家庭から回答を得たが，回答チームの全家庭から回答を得られた訳ではない．また，統括連盟では部員数，家庭数が把握されていないため，全家庭の何%から回答があったのか正確な数値は不明であるが，60%程度と推定される．

競技人口減少の要因把握を主目的とするため，保護者の目線ではその理由が何かを尋ねることは勿論，「入部にあたっての懸念事項」，「自，他チームの活動の様子を見ての問題点」，「入部勧誘をして即入部に至らなかった際の理由」等，（学童）野球のマイナス点を発見するための質問項目を多く組み込んだ．なお，項目検討にあたり，対象チームのうち 3 チームの関係者と対話をした内容を参考にした．

【３】　調査結果・コメント

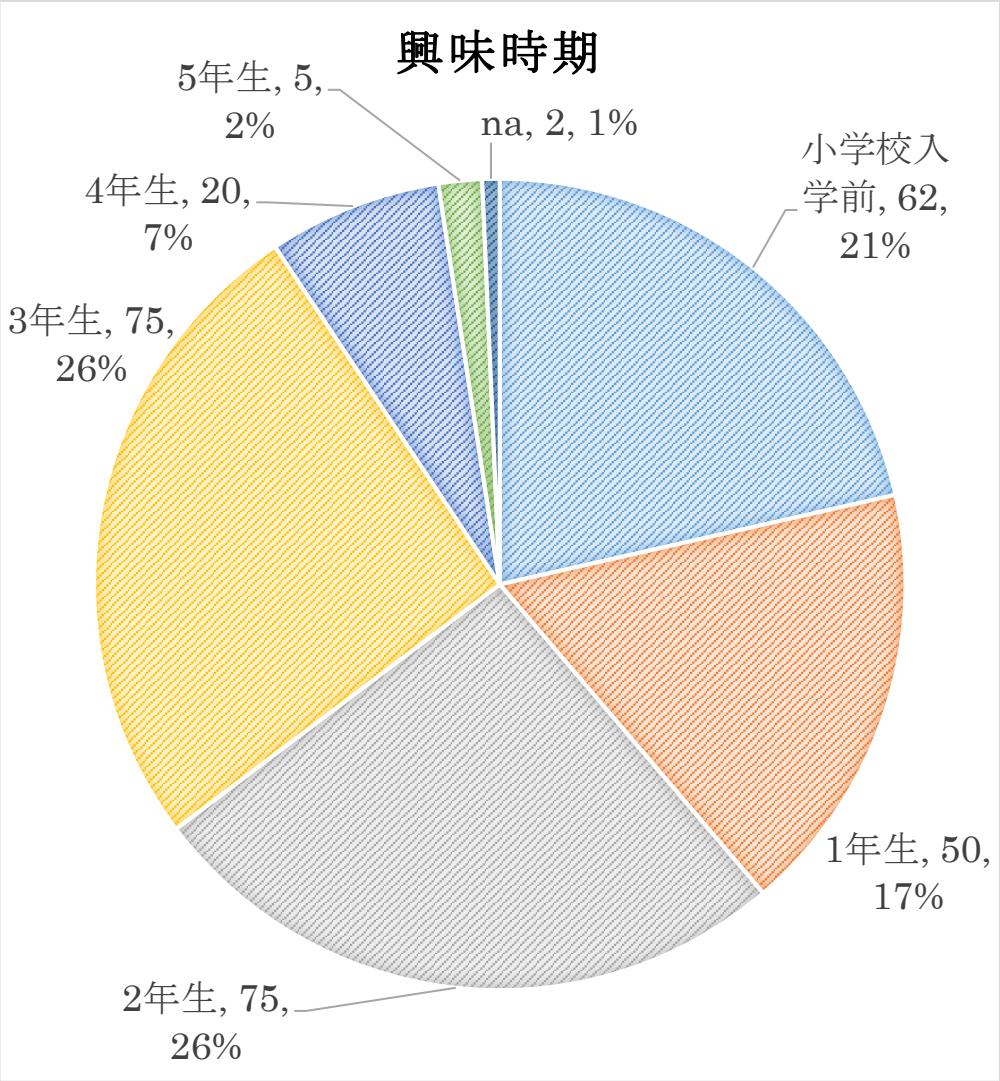
単＝単数，複＝複数可，選＝選択式，自＝自由記述式

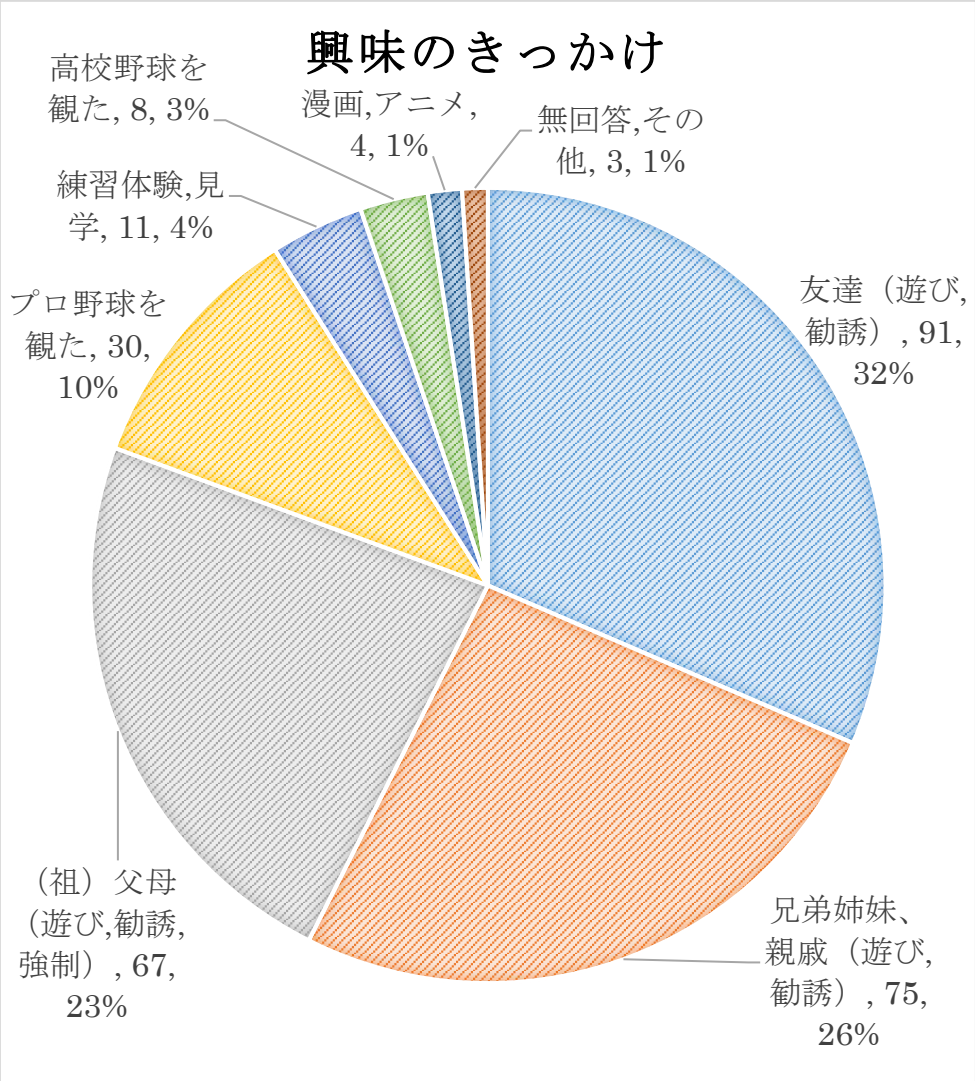
児童に関する問　ｎ＝289，保護者に関する問　ｎ＝274

①お子さんの学年を教えて下さい．（2015 年度）　単選

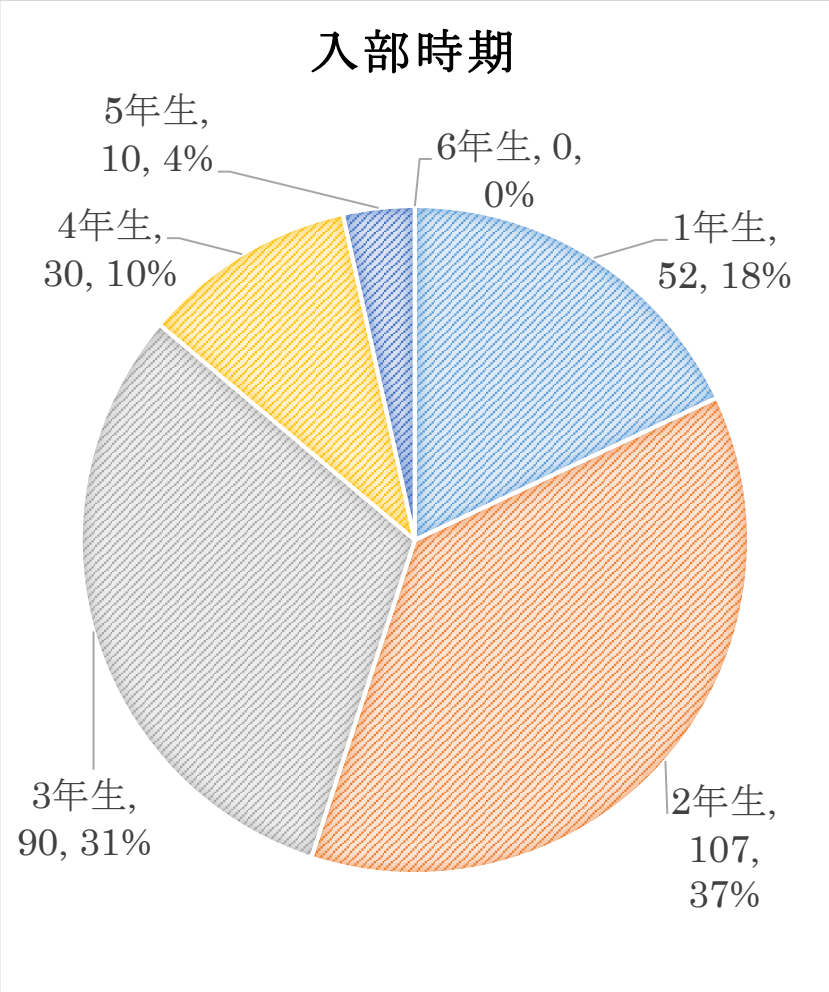
6 年生 5%（16），5 年生 35%（102），4 年生 26%（74），3 年生 18%（51），
2 年生 11%（33），1 年生 4%（11）　　※6 年生は一部の協力．上学年ほど多かった．

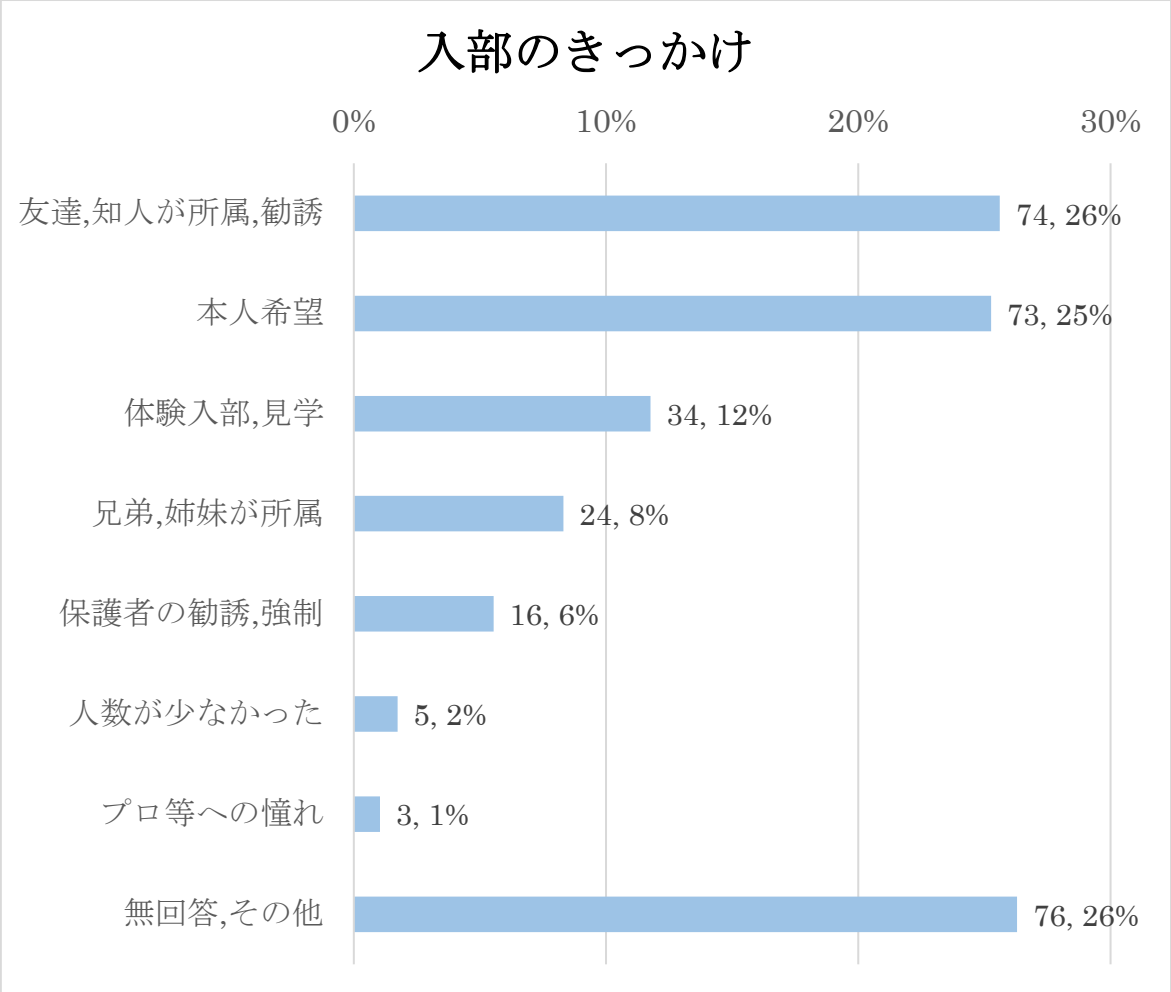
②お子さんご本人が野球に興味を持った時期，きっかけは何でしたか？　単選





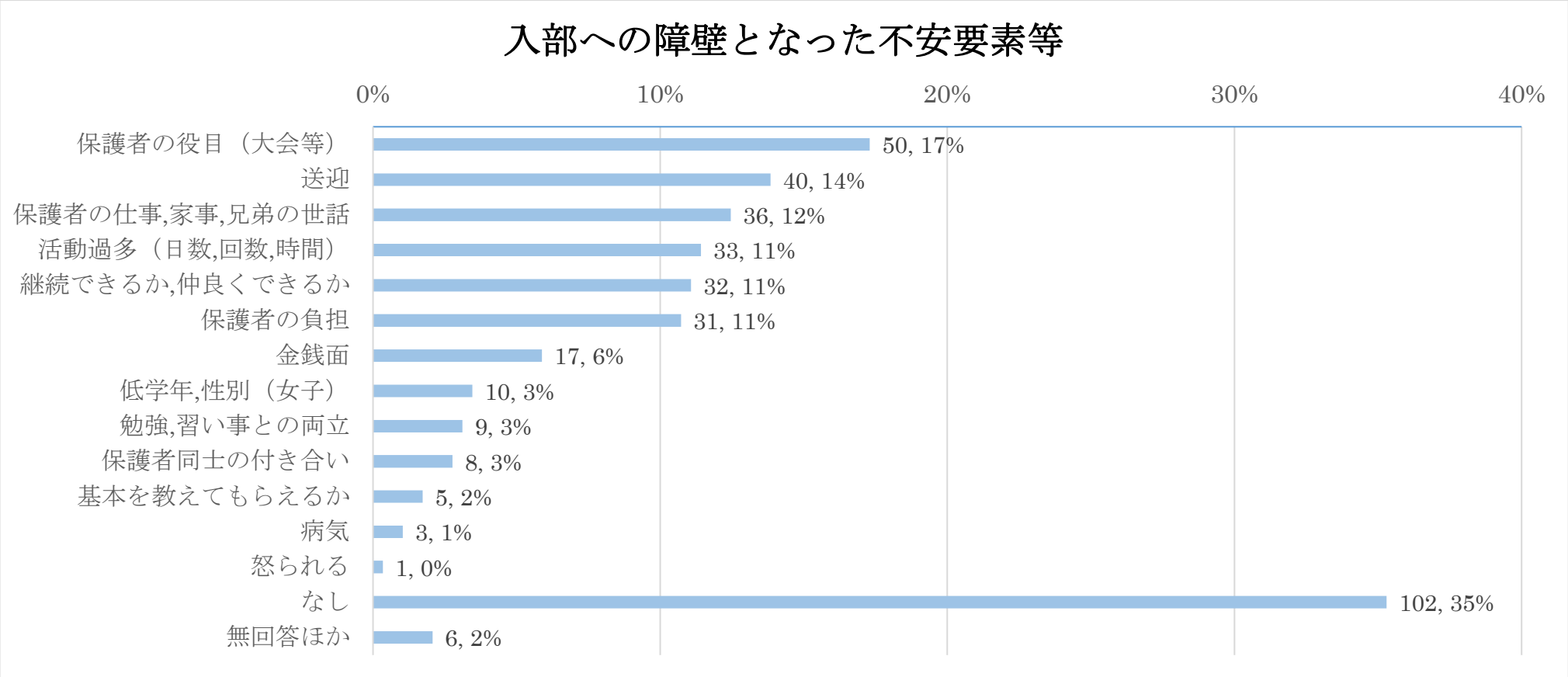
③お子さんご自身はいつ入部しましたか？　単選
また，最終的な入部のきっかけは何でしたか？　複自





以前は３年生以降でないと入部できないチームが多く，入部時期の早期化が進行していると考えられる．

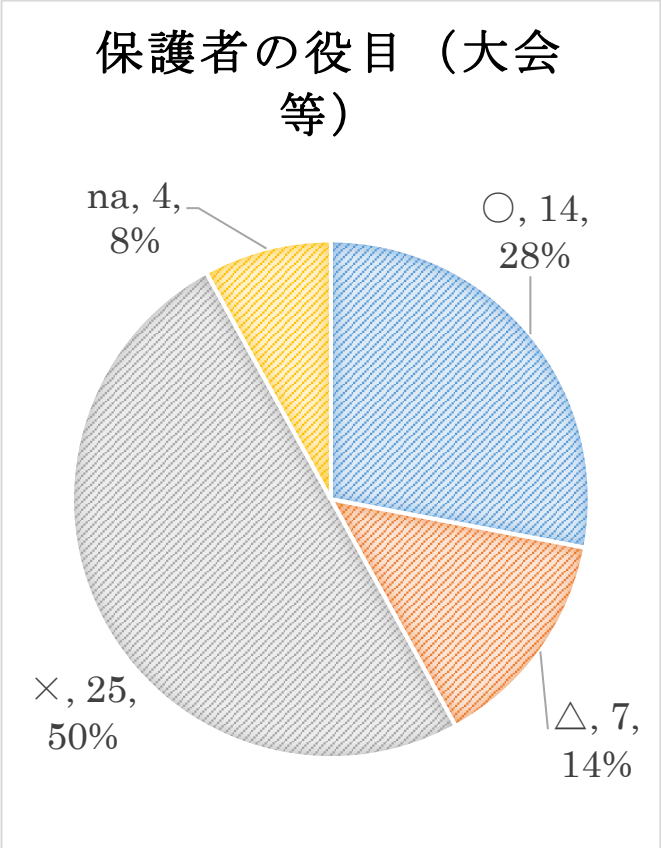
④入部前に，保護者の方，またお子さんご自身にとって，入部への障壁となった不安要素，懸念事項等があった場合は教えて下さい．（なかった場合は「なし」）㊙㊐

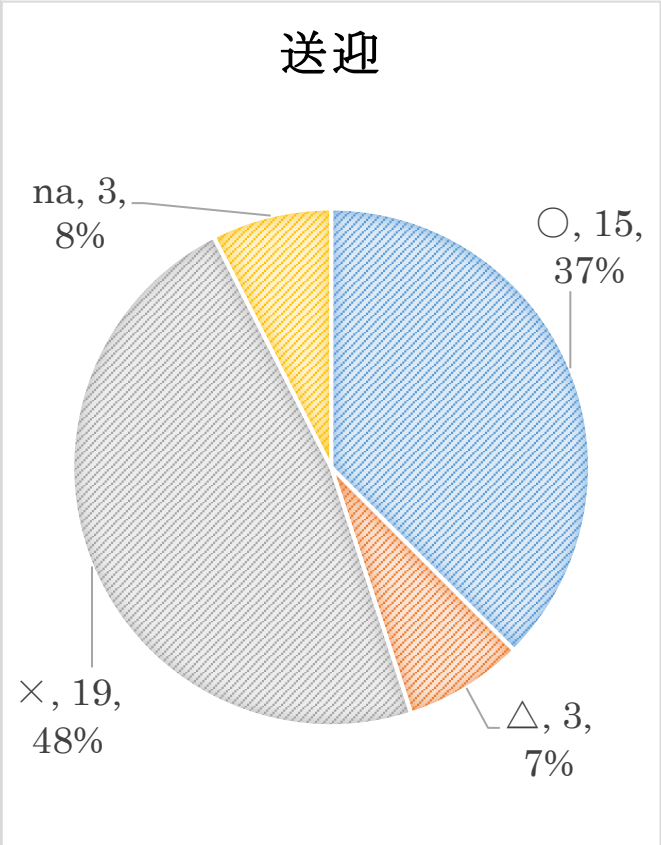


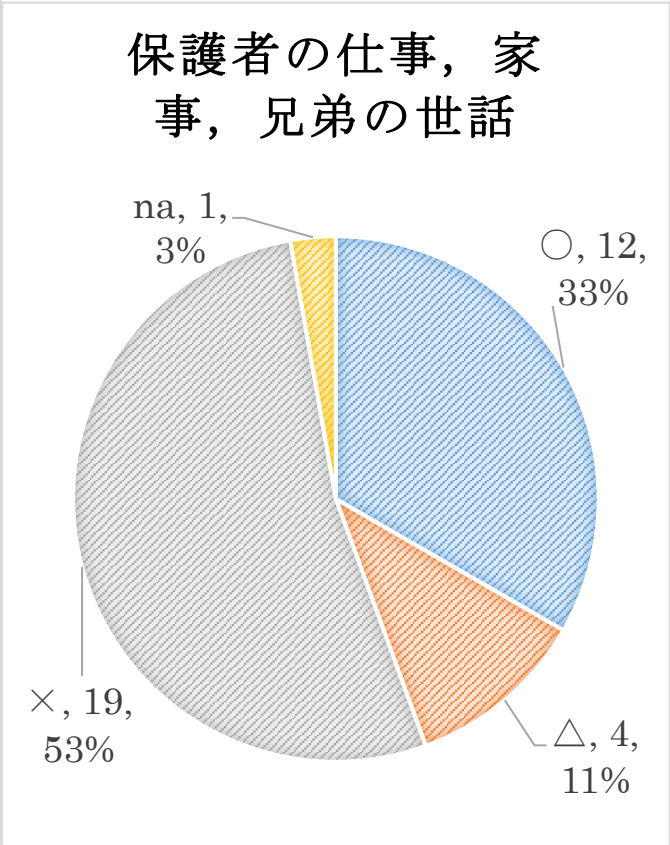
全体の約 2/3 の保護者，または部員は，入部前に，入部への障壁となった不安要素，懸念事項等があったことが示された．

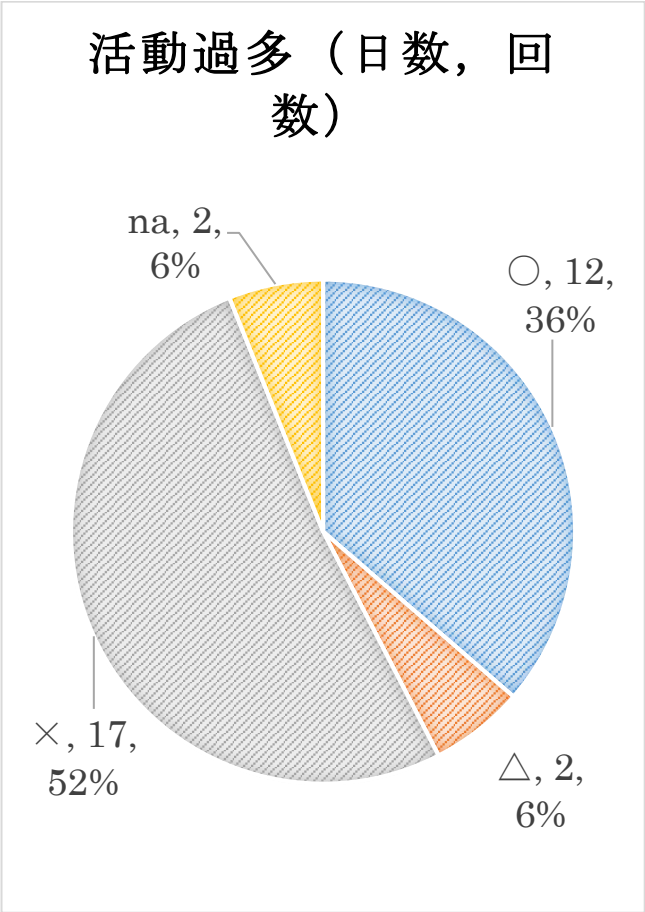
⑤ ④「入部への障壁となった不安要素等」を，入部後に振り返りどう感じますか？
㊙㊐

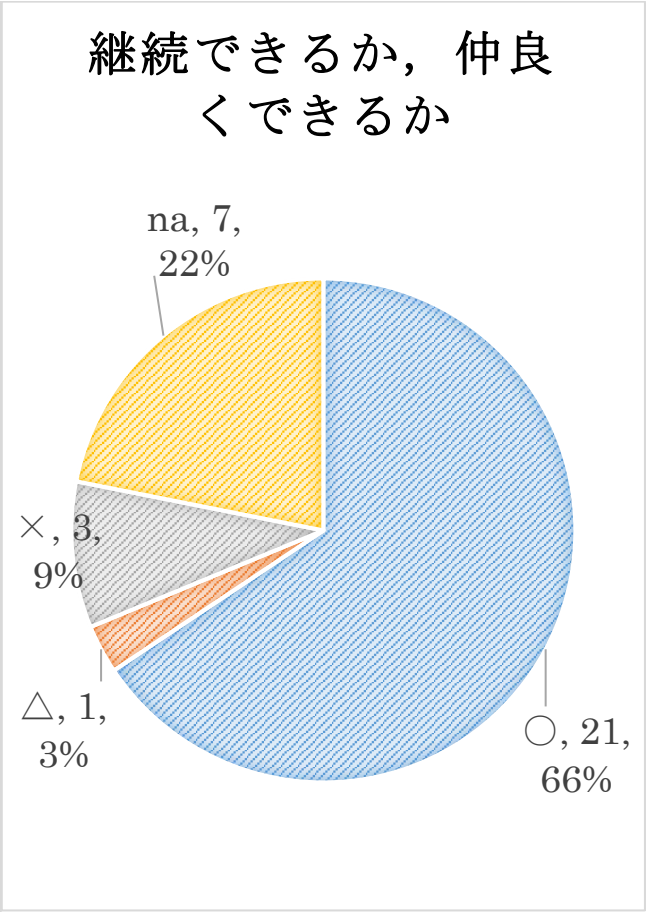
➡④上位項目について，入部後の保護者の感想を「○」「△」「×」で表しました．
○＝問題なし等，△＝何とかなっているが大変等，×＝やはり大変等

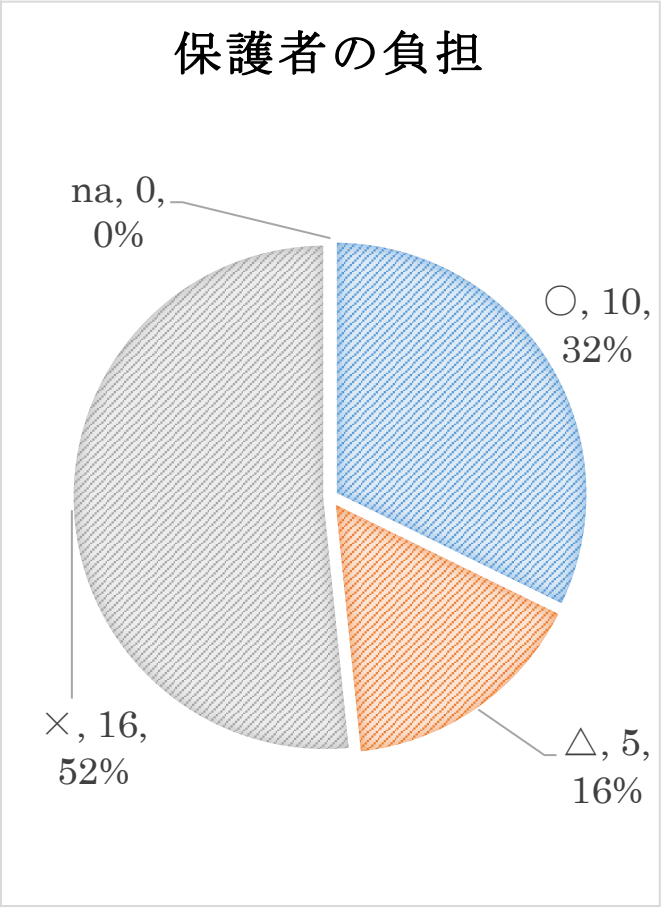


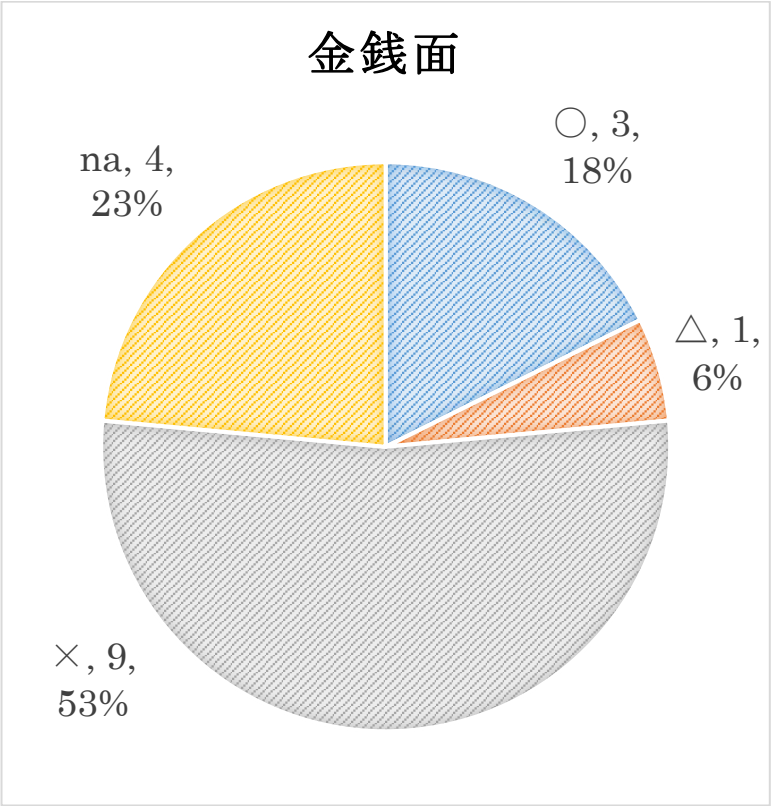





活動過多（日数，回数）
na, 2, 6%
○, 12, 36%
△, 2, 6%
×, 17, 52%

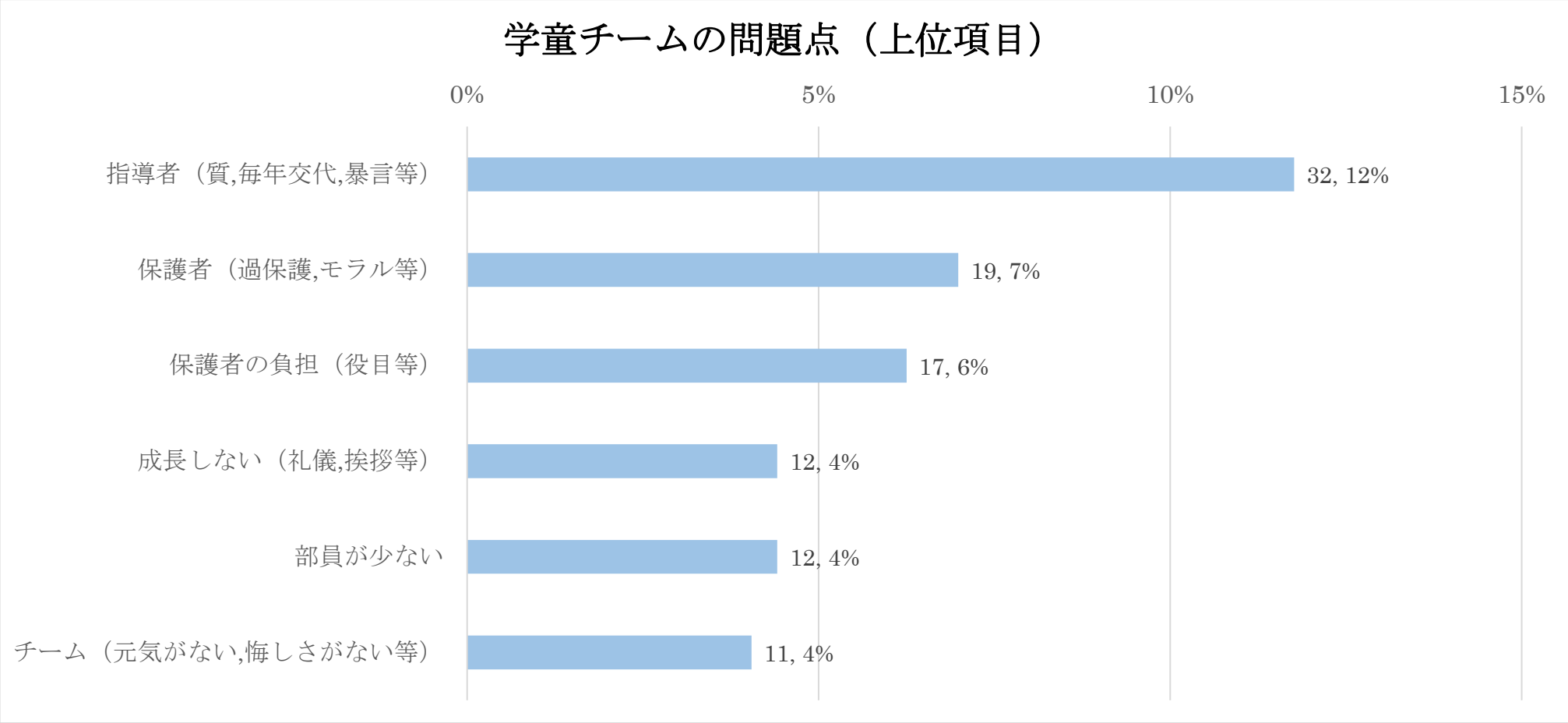

継続できるか，仲良くできるか
na, 7, 22%
×, 3, 9%
△, 1, 3%
○, 21, 66%


保護者の負担
na, 0, 0%
○, 10, 32%
△, 5, 16%
×, 16, 52%

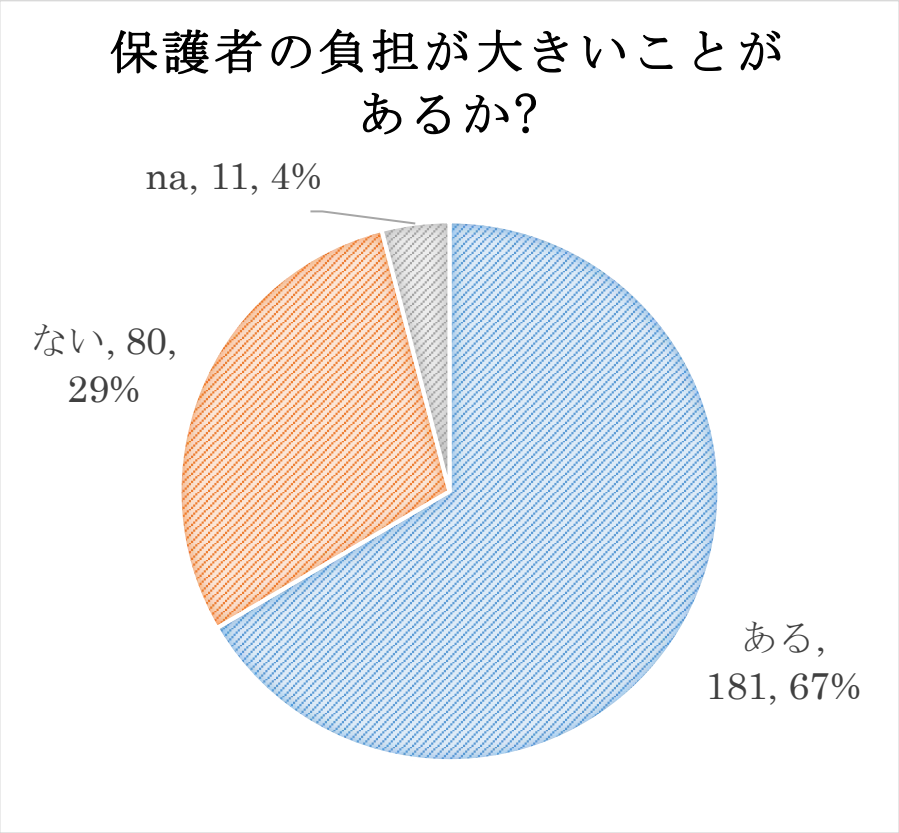


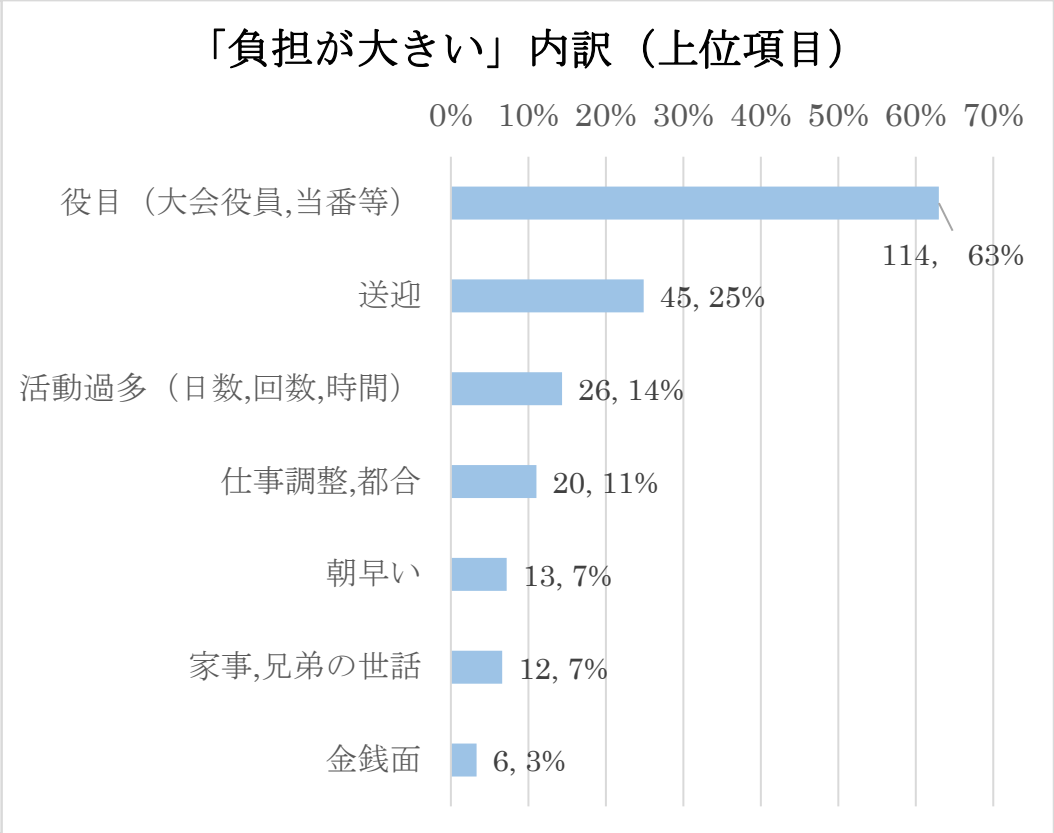
入部前，大変であることをある程度予想していたとしても，保護者が関係する項目は，×が 50%程度に達している．予想を上回る大変さであることが示唆される．

⑥お子さんの所属するチームの現状，あるいはその他のチームの活動の様子を見て，これでいいのだろうか？あるいは，これはおかしい！と感じることがあれば教えて下さい．　㊙㊐　➡上位項目のみ



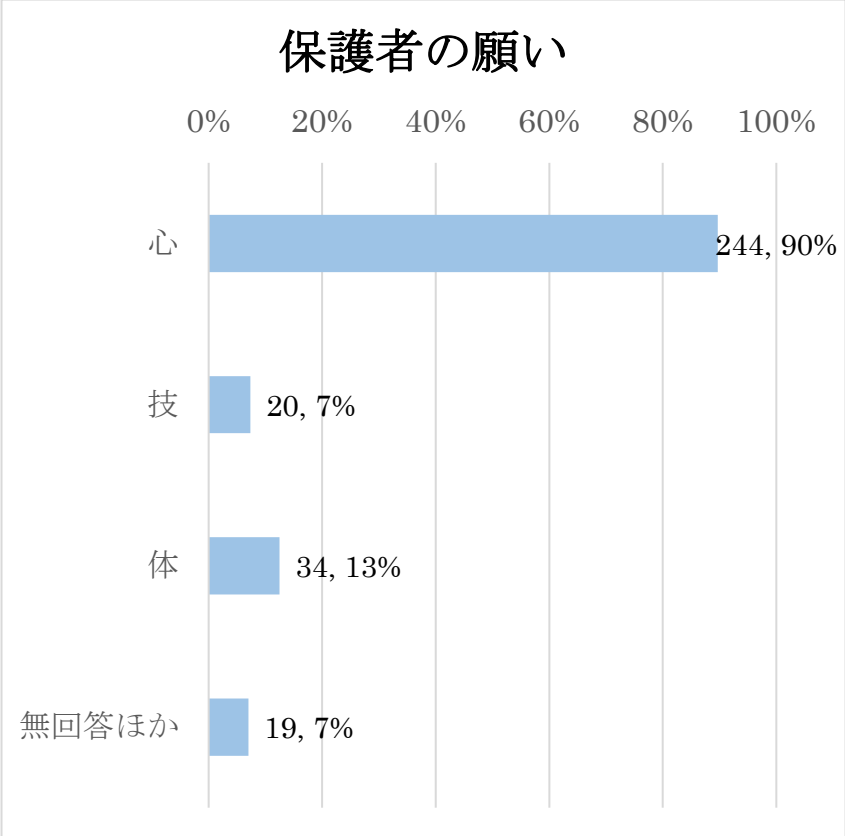
⑦お子さんの野球活動に関わる中で，保護者の方の労力，負担が大きいと思うことがありますか？　単選
ある場合，具体的に教えて下さい．　複自　➡上位項目

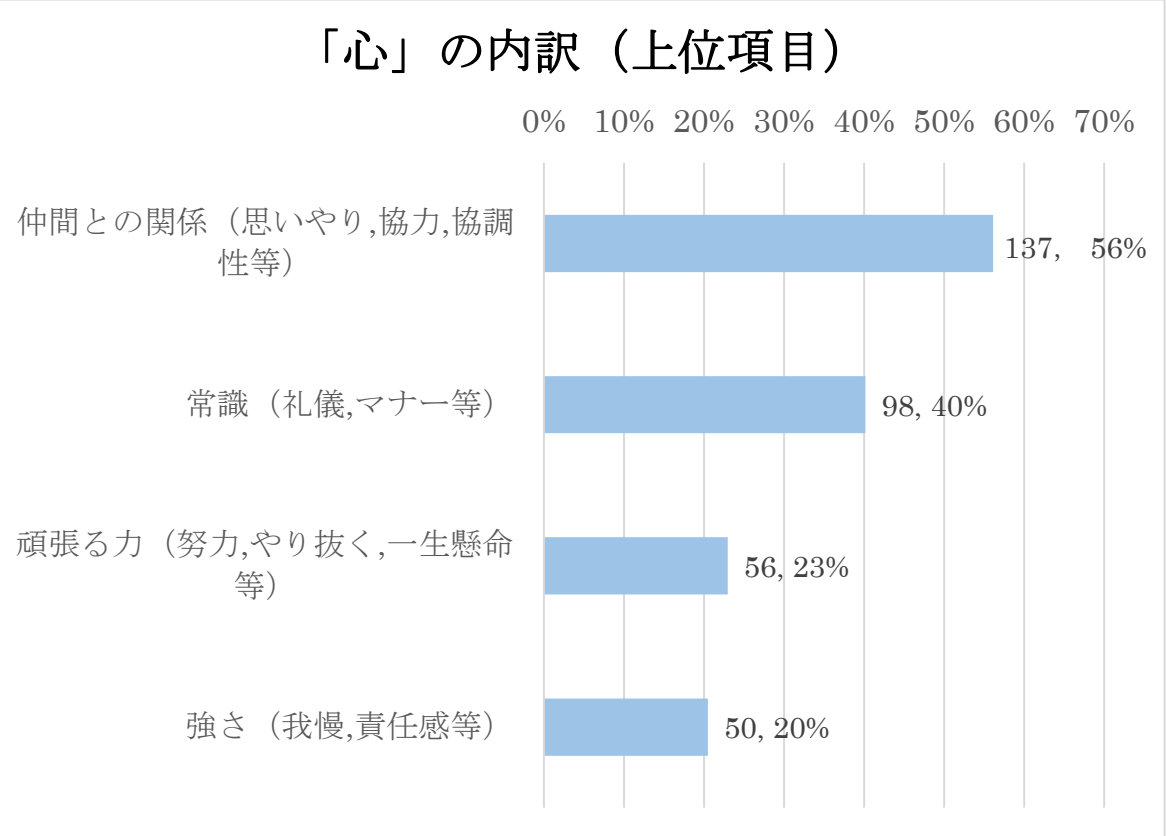




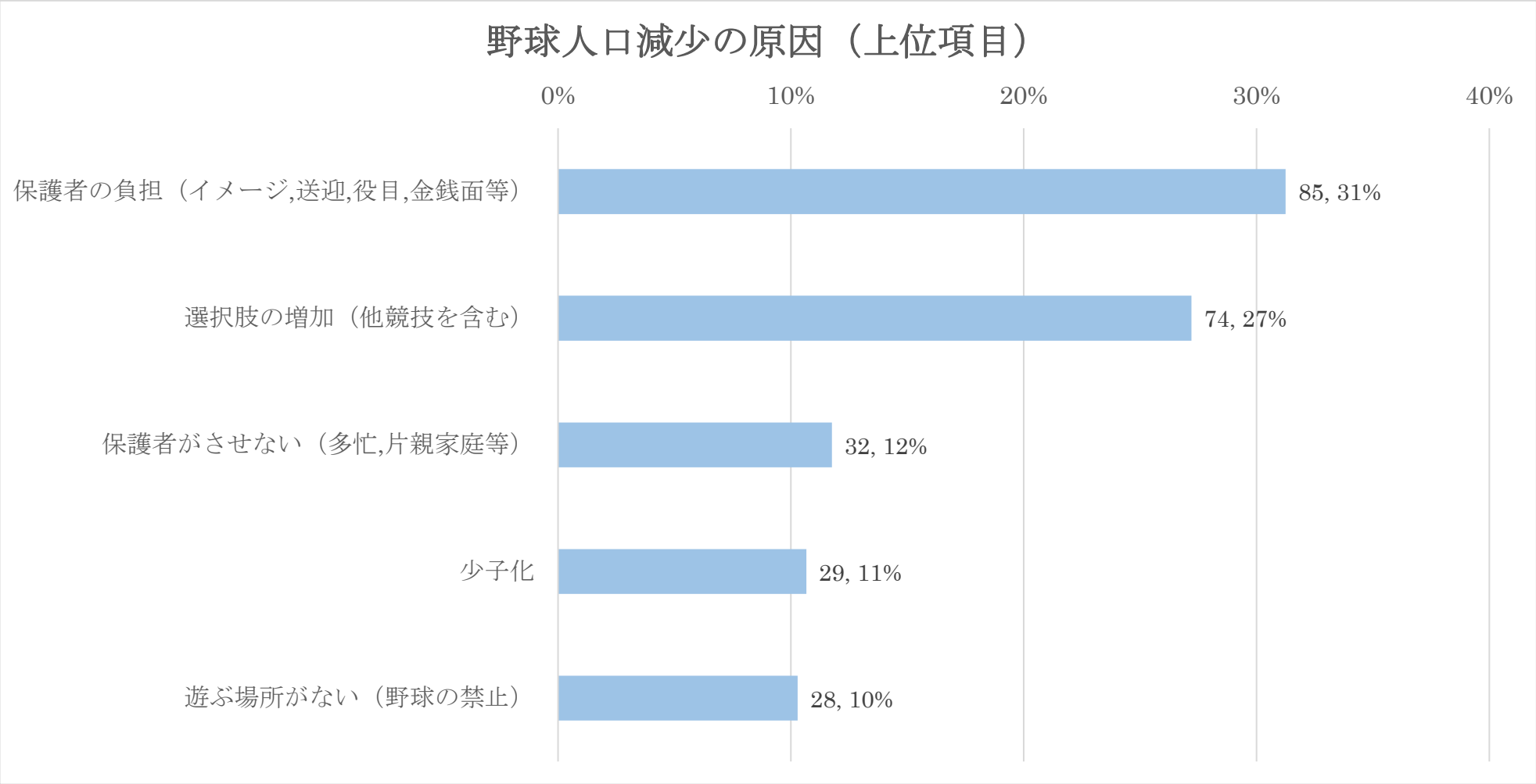
⑧野球活動を通じて，保護者として，お子さんにどのようになってほしいと願っていますか？　㊙㊀

➡回答を「心」「技」「体」いずれに関するものか検討し，分類しました．
➡「心」に関する項目が非常に多かったため，その内容の上位項目を示しました．



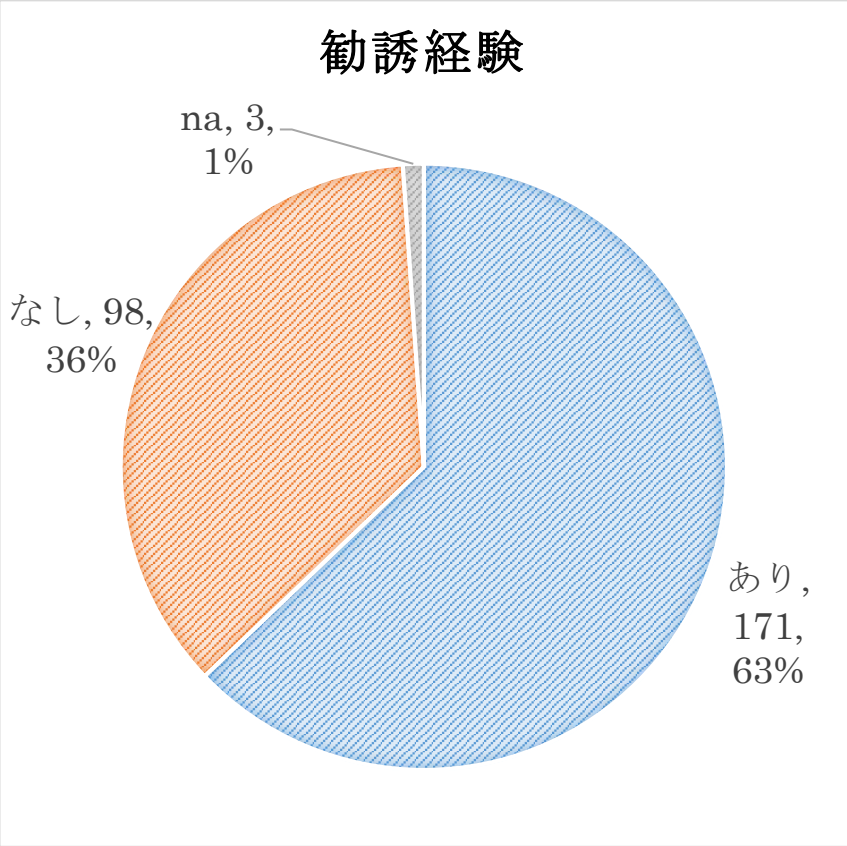


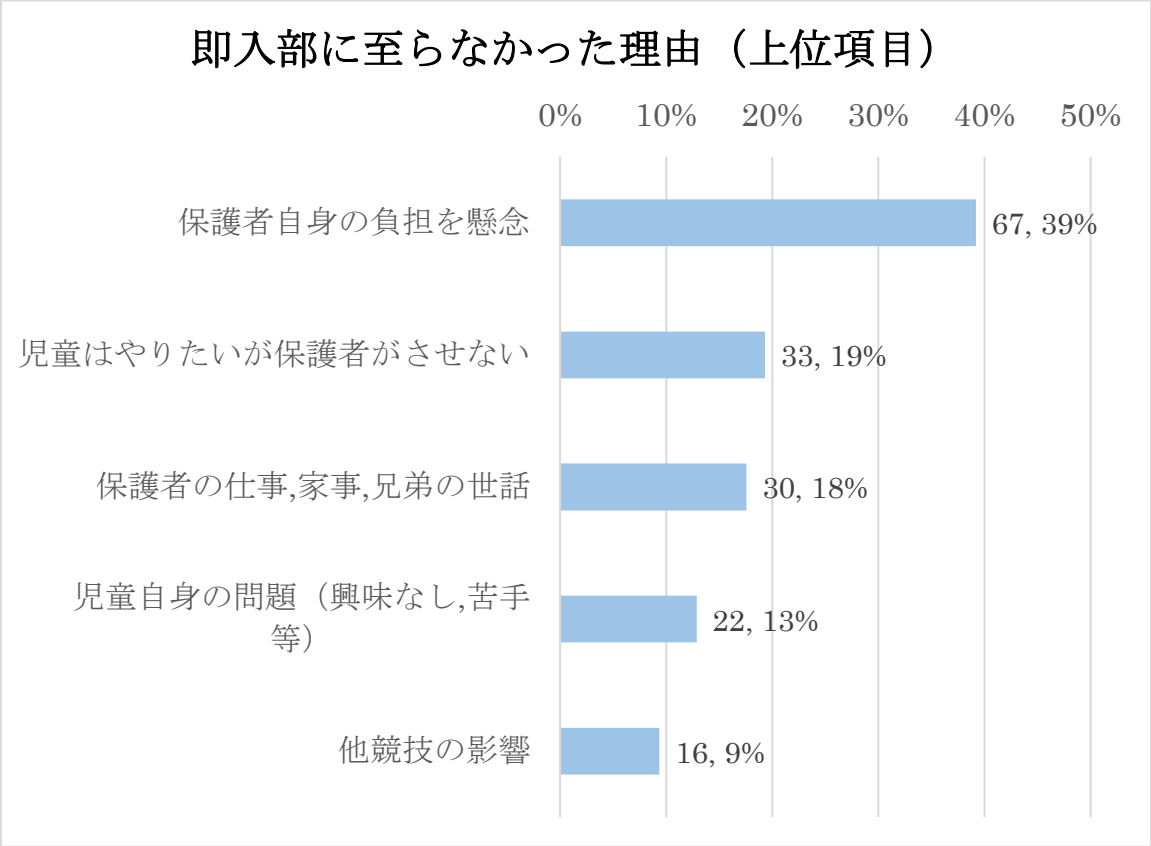
⑨野球人口の減少について，何が原因だと思いますか？　㊙㊐　➡上位項目



⑩他の家庭のお子さん，または保護者に対し，保護者，または部員ご本人から直接，入部勧誘をしたことがありますか？　単選

「あり」と回答した方で，すぐに入部に至らなかったお子さんがいた場合，理由は何でしたか？　複自　➡上位項目





⑪これまで野球をして（させて）どう思っていますか？　単選
また，「よかった」「どちらかと言えばよかった」場合，何がよかったですか？単選

部　員

よかった 83%（237），どちらかと言えばよかった 17%（48），どちらかと言えばよくなかった 0%（1），よくなかった 0%（1）

（理由）

好きな野球ができること 49%（139），仲間ができたこと 30%（85），…

保護者

よかった 78%（224），どちらかと言えばよかった 20%（59），どちらかと言えばよくなかった 2%（5），よくなかった 0%（0），無回答 1（0%）

（理由）

好きなことに一生懸命取り組めること 45%（127），仲間ができたこと 24%（67），…

⑫お子さんご本人が，活動を辞めたいと思ったことはありますか？　単選
あった場合は，その理由を教えて下さい．　単選

あり 20%（57），なし 78%（227），無回答 2%（5）
（「あり」理由）
活動内容がつまらない，または活動時間が長いこと 25%（14），野球が思うように上手にプレイできないこと 23%（13），…

⑬家庭状況について教えて下さい．

◆父母とも同居，土日休の家庭は 53 家庭（19．5%）
◆1 か月に児童 1 人当たり（全家庭平均）
　野球活動に使う金額 3，316 円　　使える最高金額 4，852 円
　※家庭により，「野球活動」の定義は異なる．（例：食事代等）

使っている金額は…　高い 3%（7），どちらかと言えば高い 27%（74），どちらかと言えば安い 46%（125），安い 13%（36），無回答 11%（30）

【４】　課題（考察）

⑨野球人口減少の原因に関する質問で，「保護者の負担」，「選択肢の増加」が非常に高い値を示しているが，特にこの 2 つの項目がポイントになると考えられる．

【保護者の負担】

④入部への障壁となっていた項目（保護者の負担に関する項目が上位）を，⑤で入部後に振り返ってもらった．保護者は，大変であることをある程度覚悟していたであろうと思われるが，各項目で 50%程度は「やはり大変」等との回答であり，想像以上の大変さであることがうかがえる．部員が減少し，存続が危ぶまれるチームが続出している状況下，「役目の必要絶対数が多い」，「人手が足りない」という意見も多く見られた．

④の通り，約 2/3 の保護者が，入部への障壁となった不安要素等があると回答しており，その上位項目の多くは，保護者が保護者としての役割を果たせるかどうかという点に集約される．入部後も，⑦の通り，70%に迫る多くの保護者が，「労力，負担が大きいと思うことがある」と回答しているが，その多くは大会役員や当番等，野球に特有と思われる「役目」であり，その他の項目についても，多くは保護者が現場にわざわざ行き，あるいは拘束されることに起因するものである．

因みに，⑦「負担が大きいものの内訳」の「役目」で，回答に記述された内容と

して，例えば以下のようなものがあった．

・大会，試合関係（理事，審判，放送，スコア，カウントランプ，ボールボーイ，救急，会場準備・撤収，応援，車当番，お茶出し，用具の準備，雨天時の水とり）

・普段の活動関係（勧誘，お茶当番，鍵当番，立当番，指導）

このように，保護者の負担（主として役目）が想像以上に大きく，そのようなイメージが一定程度定着した結果として，⑩の通り，（入部を希望している児童の家庭であっても）勧誘をしても，保護者が自身の負担を懸念する等し，入部させるのを躊躇することに繋がっていると考えられる．つまり，「役目ができないなら入部できない」構造になりつつあると言えるのではないか．

【選択肢の増加】

例えば，日本サッカー協会では，その目的にサッカー競技の普及を掲げており，Jリーグクラブを中心に全国各地で，日常的に普及活動を展開している．また，テニス，水泳，体操等，五輪競技に採用されているようなスポーツから，マイナー競技に至るまで，現在では各地で気軽に始めることができるものも多い．テレビゲーム，パソコンの普及等もあり，児童にとって，遊びの選択肢が増加していることは疑いようがない事実であると考えられる．また，これには，球界を挙げての普及活

動がないことも当然ながら，プロの試合のテレビ中継数減少，学校・公園での野球の禁止等により，日常生活での野球の存在感が薄れていることも関係していると考えられる．

【矛盾】

⑧で示した通り，保護者の大半は，野球を通じて「心」の成長，特に仲間との関係があってこそ築ける力である，思いやり，協力，協調性等を身に付けてほしいと考えている．しかし，**【保護者の負担】**で示した通り，保護者は自ら，役目として，カウントランプ，ボールボーイ，用具の準備，雨天時の水とり等を行っている．これらは，仲間と相互に協力し，部員ができる範囲のものであると考えられる．現状は，「面倒なことはすべて保護者がやる．部員は野球に集中しろ」と言っているかのようである．これらの行動は，保護者が望む児童の成長を，保護者自らが阻害しているということであり，さらなる保護者の負担に繋がっているものと考えられる．

【５】　対策（提案）

◆**【保護者の負担】**で示した役目を削減することを提案する．放送はなくても試合

はできるし，部員が各自で持参すればお茶当番も必要ない．部員自身で十分果たせるものもある．まず，これらの役目の見直しを，連盟，及びチーム内で行い，指導者と部員のみがいる現場づくりを目指してはどうか．指導者，部員以外が現場から遠ざかれば，「保護者が大変」という印象の払拭にも繋がると考える．

◆役目を減らすことに加え，大会数を減らすことも検討してはどうか．そもそも保護者は，野球を通じ「心」の成長を願っているから，大会での勝敗は二の次であろうし，部員にとっても，試合をすることは，保護者に負担をかける大会ではなく，紅白戦や，近隣のチームとの練習試合でも十分であると考えられるからである．

◆球界は，特に小学校入学前～小学校低学年の子どもに対し，「投げる」「打つ」等，野球型競技の楽しさを伝える活動を実施してはどうか．野球は，ルールが複雑，用具が高価等，競技を始めるにあたり不利な点を抱えているから，このような活動を実施し，野球を身近に感じてもらう努力をしないと，比較的手軽に始められるサッカー等に，競技人口をますます奪われてしまうのではないか．

◆中心は児童であるという視点を一層持って活動すべきではないか．「子どものためになるか」を重視して活動すれば，子どもができる役目を保護者がするといった過保護状態になることもあり得ず，真に児童のためになる活動ができるはずである